

平成20年度
定期総会議案

と き 平成20年9月4日（木） 13時30分

ところ シティホテル美濃加茂

高山本線強化促進同盟会

総会次第

1 開 会

2 会長あいさつ

3 来賓祝辞

4 来賓紹介

5 祝電披露

6 議 事

議案第1号 平成19年度事業報告について

議案第2号 平成19年度収支決算について

議案第3号 平成20年度事業計画（案）について

議案第4号 平成20年度収支予算（案）について

報告第1号 役員改選について

7 決 議

8 閉 会

平成19年度事業報告

自 平成19年4月 1日
至 平成20年3月31日

年 月 日	事 業 内 容
19. 6. 6	幹事会を開催し、定期総会の開催方法、提出議案、JRに対する要望事項等を協議（岐阜市）
19. 8. 9	定期総会を開催し、平成18年度事業報告及び同収支決算並びに平成19年度事業計画（案）及び同収支予算（案）を審議決定（美濃加茂市）
19. 7. 26	全国鉄道整備促進協議会総会に出席（東京都）
19. 9. 8	高山本線の角川駅～猪谷駅間が開通し、全線で運行再開それに伴い、全線運行再開記念事業を実施（飛騨市）
19. 9. 20	全国鉄道整備促進協議会事務担当者研修会に出席（札幌市）
20. 2. 15	東海旅客鉄道株式会社に対し、要望実施（名古屋市） [要望事項] 1 旅客輸送サービスの強化改善 2 全線電化の早期完成及び複線化の促進 3 軌道及び保安施設の強化と防災施設の整備促進
20. 2. 19	事務担当者研修会を開催（岐阜市） [テーマ] 高山本線強化の今日的意義とねらい [講師] 岐阜大学地域科学部教授 竹内伝史 氏
20. 2. 22	西日本旅客鉄道株式会社に対し、要望実施（金沢市） [要望事項] 1 旅客輸送サービスの強化改善 2 全線電化の早期完成及び複線化の促進 3 軌道及び保安施設の強化と防災施設の整備促進

平成19年度収支決算

自 平成19年4月 1日
至 平成20年3月31日

収入の部

(単位：円)

科 目	予 算 額	収 入 済 額	差 引 増 減 (△) 額	摘 要
1 負担金	480,000	480,000	0	
2 繰入金	954,000	954,000	0	
3 繰越金	331,000	331,531	531	
4 雑入	1,000	1,760	760	預金利息
計	1,766,000	1,767,291	1,291	

支出の部

(単位：円)

科 目	予 算 額	支 出 済 額	差 引 増 減 (△) 額	摘 要
1 会議費	300,000	210,258	△89,742	総会、幹事会開催経費
2 事業費	1,431,000	660,050	△770,950	復旧記念事業経費、 事務担当者研修会経費等
3 事務費	10,000	3,045	△6,955	振込手数料
4 負担金	20,000	15,000	△5,000	全国鉄道整備促進協議会 負担金
5 積立金	0	0	0	
6 予備費	5,000	0	△5,000	
計	1,766,000	888,353	△877,647	

収入合計 1, 7 6 7, 2 9 1 円
 支出合計 8 8 8, 3 5 3 円
 差引残高 8 7 8, 9 3 8 円 (平成20年度へ繰越)

平成20年度事業計画

本同盟会は、高山本線が地域における重要な鉄道として大きな役割を果たしていることから、東海旅客鉄道株式会社及び西日本旅客鉄道株式会社に対し、複線電化の早期完成及びスピードアップ、サービス改善等の推進を要望する。また、平成21年度は高山本線全線開通75周年を迎えることから、この機会を捉え利用促進を図るための研究及び広報活動を実施するものとする。

事業計画

- 1 旅客輸送サービスの強化改善、複線電化の促進、軌道等の強化と防災施設の整備促進について、東海旅客鉄道株式会社及び西日本旅客鉄道株式会社に対し、その実現を強く働きかける。
 - ・特急「ワイドビューひだ」号の増発
 - ・部分線増、一線スルー化、分岐器の改良等によるスピードアップ
 - ・朝夕の通勤・通学時間帯及び昼間時間帯における普通列車の充実
 - ・季節的臨時列車の増発、企画切符の導入など観光客増加策の推進
 - ・北陸新幹線延伸を視野に入れた強化方策の推進
- 2 利用者増を図るため、啓発活動を実施する。
- 3 情報・資料の収集に努めるとともに、高山本線の果たす役割、重要性について広報活動を推進する。
- 4 全国鉄道整備促進協議会等関係諸団体と連携し、本会事業の促進を図る。
- 5 その他、運動の目的を達成するため、会長が必要と認める事業を実施する。

平成20年度収支予算

自 平成20年4月 1日
至 平成21年3月31日

収入の部

(単位：円)

科 目	平成20年度 予 算 額	平成19年度 予 算 額	差 引 増 減 (△) 額	摘 要
1 負担金	426,000	480,000	△54,000	負担金の削減
2 繰入金	0	954,000	△954,000	復旧記念事業積立金
3 繰越金	878,000	331,000	547,000	前年度繰越金
4 雑入	1,000	1,000	0	預金利息
計	1,305,000	1,766,000	△461,000	

支出の部

(単位：円)

科 目	平成20年度 予 算 額	平成19年度 予 算 額	差 引 増 減 (△) 額	摘 要
1 会議費	300,000	300,000	0	総会、幹事会開催経費
2 事業費	975,000	1,431,000	△456,000	広報・啓発事業費、 事務担当者研修会経費等
3 事務費	10,000	10,000	0	振込手数料
4 負担金	15,000	20,000	△5,000	全国鉄道整備促進協議会 負担金
5 積立金	0	0	0	
6 予備費	5,000	5,000	0	
計	1,305,000	1,766,000	△461,000	

決 議

高山本線は、これまで70年あまり、我が国のほぼ中央部において日本海側と太平洋側とを結ぶ交通の大動脈としての役割を担い、沿線各地はもとより中部圏全体の交流の活発化を図り、経済・文化の発展、向上に寄与してきた基幹鉄道である。

平成16年10月の台風23号被害により、長期間にわたり不通となっていた角川駅から猪谷駅間が昨年9月に復旧し、高山本線全線で運行が再開されたことから、個性豊かな沿線地域を結ぶ交流の柱として、その使命を再び果たすこととなり、沿線地域のインフラ整備とあいまって、中部圏の活性化に大きく貢献していくこととなった。

さらに、将来、北陸新幹線が延伸され、高山本線が北陸新幹線に接続されると、首都圏から中部圏への新たな移動ルートとして、その役割を果たすこととなり、高山本線の重要性はますます高まるものと確信する。

このような中、東海旅客鉄道株式会社及び西日本旅客鉄道株式会社におかれては、今後、さらに高山本線に関する積極的経営施策を展開し、広域的サービスはもとより、地域密着型サービスの提供に努められるよう、強く要望するものである。

また、これまで高山本線のスピードアップ、ダイヤの充実等による利便性の向上、鉄道施設の改良、点検、社員教育等による安全対策に努められているところであるが、鉄道輸送の最重要課題である「安全性の確保」のため、より一層の安全対策、安全運行に努められるとともに、下記事項の実現について併せて要望するものである。

記

- 1 旅客輸送サービスの強化改善
- 2 全線電化の早期完成及び複線化の促進
- 3 軌道及び保安設備の強化と防災施設の整備促進

以上決議する

平成20年9月4日

高山本線強化促進同盟会